News Release

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

各報道機関文教担当記者　各位

令和６年２月２２日

震災からの復旧・復興に向けて
「能登里山里海未来創造センター」を立ち上げ

金沢大学は，地域・自治体・企業との協調・共創と文理医の融合により，中長期的視点から，**能登における教育，医療，文化，産業の復興・再生そして継続的発展を強力に推進するため，「能登里山里海未来創造センター」を新たに設置しました。**

同センターは，**「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」**に寄与し，「生活の再建」「生業の再建」「災害復旧等」を掲げた石川県の「被災者の生活と生業（なりわい）支援のためのパッケージ」や復旧・復興の方向性を基軸に，緊急対策と中長期的な複眼的視点により，復旧・復興を推進します。

これまでの取り組み，また今後の展望については，Web サイト等での情報発信のほか，令和６年能登半島地震調査・支援活動報告会において広く学外に発信していく予定です。

Web サイト URL：https://www.kanazawa-u.ac.jp/social-engagement/rrcenter

＜本件照会先＞
総務部総務課　佐藤
TEL：０７６－２６４－５００７

広報戦略室　川田
TEL：０７６－２６４－５０２４

能登里山里海未来創造センター

Noto Resilience and Revitalization Center

金沢大学の英知を集結することにより、「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、令和６年能登半島地震の被災地の復興に資することを目的とします。

センター長 統括担当理事 **大竹 茂樹**

センターの役割と体制

Planning

里山里海創造ＷＧ

中長期的視点による創造的復興に向けた構想の立案、学内外の調整を行う。

座長 附属病院 副病院長 **谷内江 昭宏**

Research and Report

令和６年能登半島地震金沢大学合同調査チーム「KUD」

（Kanazawa University against Disaster）

研究分野を超えた、文理医融合の合同調査チーム。能登半島全域における被災地の現状把握や被災者支援、復興対策に役立つ公共性・公益性の高い情報発信を行う。

統括 研究担当理事 **中村 慎一**

Mental Care

こころのケア専門チーム「KEYPAT」

（Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team）

令和６年能登半島地震によって、心の不調を抱えることになった方々を心理面から支援する全学的チーム。個別のサポートとともに集団のサポートとコンサルテーションを行う。

統括 保健管理センター 教授 **吉川 弘明**

Medical Support

医療支援

被災者の健康維持増進に必要な医療支援を中長期的な視点に立って行う。能登半島地震発災からの医療支援全般にかかわる本学の取組を振り返り、課題と今後の震災に向けた対策を立案する。

統括 医薬保健研究域医学系 教授 **吉崎 智一**

Education And Training

教育・ひとづくり

急性期の被災中学生･高校生に学習環境（場所及び物的･人的支援）を提供し、学びの継続を支える。 並行して、帰還期・復興期を見据えた地域再建のための価値再生と価値創造を、教育と人づくりの視点で推進する。

統括 教育担当理事 **森本 章治**

Volunteer

被災地支援（ボランティア）

金沢大学学生・教職員ボランティアの被災地への継続的な派遣と現地での支援活動の実施により、地域との連携を深め、地元大学として長期的な復興支援と地域再生を行う。

統括 教育担当理事 **森本 章治**

復興のプロセスに応じてチーム等の再編も想定しています。

融合学域･研究域、人間社会学域･研究域、理工学域･研究域、医薬保健学域･研究域、国際基幹教育院、附属病院、学内各研究所･センター･機構等

学内の様々な部局・組織と連携して、オール金沢大学で被災地に寄り添い、震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。

KANAZAWA UNIVERSITY

里山里海創造 WG

地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくりを推進し、被災地の創造的復興に寄与することを目的とし、中長期視点による構想の立案、学内外の調整を行う。

金沢大学では、珠洲市がこれまで展開してきた奥能登国際芸術祭における効果・成果を基に、これまで実施してきた能登里山里海 SDGs マイスタープログラムによる人材育成・活動分野にアートの要素を加え、地域の付加価値創出・復興に寄与する計画を検討している。

令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会を実施

掲載日：2024-2-5　ニュース　能登復興

2月3日，金沢大学能登里山里海未来創造センター（※1）の令和6年能登半島地震合同調査チーム「KUD」(※2)，こころのケアを目的とした専門チーム「KEYPAT」(※3)は，金沢大学角間キャンパスにて「令和6年度能登半島地震調査・支援活動報告会」を実施し，県内外から約130名が参加しました。

まず，地震に関する支援活動の報告として，附属病院における医療支援，二次避難所における支援や，全学メンタルサポートチーム「KEYPAT」による活動の報告を行いました。

調査報告では，今回の地震の発生メカニズム，地震が海底の堆積物・生物に与える影響，AIと空撮写真を用いた建物被害状況の判定や，地盤被害，建物被害，津波被害など，地震による被害状況の報告を行いました。

金沢大学は，今後も地震に関する報告会を定期的に実施していくとともに，被災された方々に寄り添う支援活動と，復旧・復興に資するための調査活動を継続して行っていきます。

【公開資料はこちらから】
・令和６年能登半島地震における附属病院の医療支援・災害対応（理事・附属病院担当／大竹 茂樹）
・保健学系における二次避難所の支援報告（医薬保健研究域保健学系／表 志津子）
・能登半島地震における全学メンタルサポートチームKEYPATの立ち上げ（保健管理センター／吉川 弘明）
・ＡＩと空中写真を用いた被災建物の損傷程度の自動判定システムの開発と避難所の開設状況の分析（融合研究域融合科学系／藤生 慎）
・令和６年能登半島地震の発生メカニズム（理工研究域地球社会基盤学系／平松 良浩）
・九十九湾ー珠洲沿岸における海底地質・生物への影響調査（理工研究域地球社会基盤学系／ロバート・ジェンキンズ）
・地盤被害調査について（理工研究域地球社会基盤学系／小林 俊一）
・建物被害について（理工研究域地球社会基盤学系／村田 晶）

※1　本学の英知を集結することにより，「地震・災害に強く安全・安心で，だれもが住みよい，文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し，令和６年能登半島地震の被災地の復興に資することを目的とし，設置しました。
※2「KUD」： **K**anazawa **U**niversity against **D**isaster
※3「KEYPAT」： **K**anazawa **E**ducational **Y**ell **P**sychological **A**ssistance **T**eam

報告会の様子

大竹理事から，附属病院の医療支援について報告

令和６年能登半島地震
調査・支援活動報告会

令和６年能登半島地震金沢大学合同調査チーム「KUD」※1 および，こころのケアを目的とした専門チーム「KEYPAT」※2 は，下記のとおり今般の地震に関する現在までの調査と支援活動について，報告会を行います。

-PROGRAM-

総合司会：山岸　雅子（金沢大学理事・副学長）

開会挨拶　14：00

中村　慎一（金沢大学理事・副学長・KUD チーム総括）

調査・支援活動報告①　司会：堀　修（医薬保健研究域長）　14：05

報告１　**附属病院の医療支援・災害対応**
蒲田　敏文（副学長・附属病院長）

報告２　**保健学系における二次避難所の支援報告**
表　志津子　教授（医薬保健研究域保健学系）

報告３　**能登半島地震における全学メンタルサポートチーム KEYPAT (Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team) の立ち上げ**
吉川　弘明　教授（保健管理センター）

－ 休　憩 －

調査・支援活動報告②　司会：松本　宏一（理工研究域長）　14：50

報告４　**AI と空中写真を用いた被災建物の損傷程度の自動判定システムの開発と避難所の開設状況の分析**
藤生　慎　准教授（融合研究域融合科学系）
森崎　裕磨　助教（融合研究域融合科学系）

報告５　**令和６年能登半島地震の発生メカニズム**
平松　良浩　教授（理工研究域地球社会基盤学系）

報告６　**能登半島地震：九十九湾ー珠洲沿岸における海底堆積物・生物影響調査速報**
ジェンキンズ　ロバート　准教授（理工研究域地球社会基盤学系）

－ 休　憩 －

調査・支援活動報告③　司会：松本　宏一（理工研究域長）　15：25

報告７　**地盤被害調査について**
小林　俊一　准教授（理工研究域地球社会基盤学系）

報告８　**建物被害調査について**
村田　晶　助教（理工研究域地球社会基盤学系）

報告９　**津波の概要と被害調査について**
楳田　真也　教授（理工研究域地球社会基盤学系）

閉会挨拶　15：55

大竹　茂樹（金沢大学理事・副学長・融合研究域長）

令和６年 2月 3日（土）
14：00 ～ 16：00

■対象　どなたでも

■定員　250 名

■参加費　無料

■会場　自然科学大講義棟
（金沢大学角間キャンパス）
※会場へのアクセスは別紙をご覧ください。

■お申込み
【申込フォーム】
下記の QR コードからアクセスしてください

申込締切：令和６年 2 月 1 日（木）17 時
※締切前でも定員に達した場合は受付を終了します。
※人数把握のため、個人でお申込みください。

お問合せ

令和６年能登半島地震金沢大学合同調査チーム「KUD」事務局
e-mail：kud@adm.kanazawa-u.ac.jp

主催

令和６年能登半島地震金沢大学合同調査チーム「KUD」，こころのケアを目的とした専門チーム「KEYPAT」

※1　「KUD」（Kanazawa University against Disaster）
https://www.kanazawa-u.ac.jp/research/centers/kud

※2　「KEYPAT」（Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team）
https://hsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/keypat_message/

「KEYPAT」筑波大学医学医療系・太刀川弘和教授によるWebセミナーを開催

掲載日：2024-2-14　ニュース　能登復興

2月13日，こころのケアを目的とした支援チーム「KEYPAT」(※1)は，「災害後のメンタルヘルスケアー能登半島地震１か月後にできることー」と題し，筑波大学医学医療系・太刀川弘和教授によるWebセミナーを開催しました。

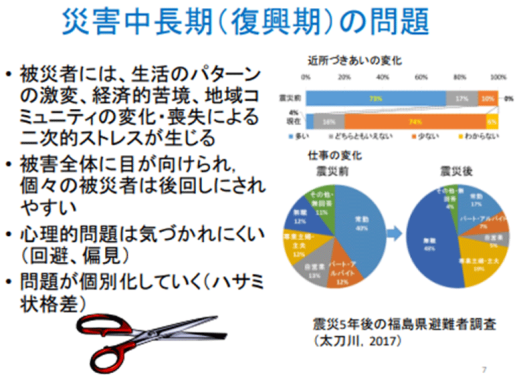
災害1ヵ月以降に生じるこころの問題，災害時のこころのケア（中長期）をテーマに，2011年東日本大震災後の支援に基づいた，多種多様なデータを用いた講演が行われました。

当セミナーには本学学生，教職員，父母等の他，学外専門職合わせて約100名が参加し，能登半島地震後の中長期のこころのケアについて検討する有意義な機会となりました。

※1「KEYPAT」：Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team

録画配信（金大動画）

講演する太刀川教授



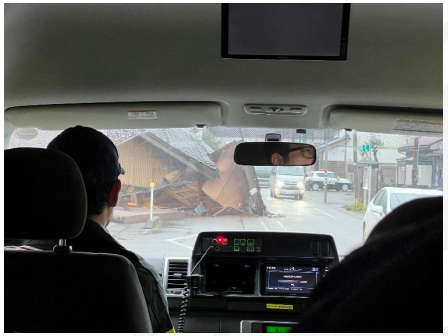
講演のスライド

最新情報一覧

震災に関連する医療支援について

DMATを市立輪島病院へ派遣　1/1(月)～3(水)

DMATミーティングの様子



輪島市内を走る車内からの様子

蛍光灯が落下しそうになるなかで、他県のDMAT隊とともにミーティングを行ったあと、車に乗り、家屋が潰れる街中を移動し活動した。

JMATを能登地域の避難所へ派遣　1/19(金)～

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、連絡員の多職種編成のもと、能登地域の避難所で、血栓症が疑われる方等への診察を行った。

1/19（金）は、七尾市の３つの避難所（山王小学校、矢田郷コミュニティセンター、小丸山小学校）で診察を行った。

小丸山小学校(七尾市)

避難所となっている小学校でも地面のコンクリートが割れたままとなっているのが分かる

地域の医療体制の維持

石川県内の他の急性期医療機関の負担軽減のため、災害以外の急性期患者の転院受入れや救急患者の受入れ対象の拡大を行い、地域医療体制の維持に努めている。

DMAT指揮所(DMAT活動拠点)を附属病院内に設置し、中核的役割を担った　1/4(木)～22(月)

自衛隊による附属病院への搬送

能登の病院から患者さんを乗せてきた救急車

他県からのDMATの協力を得て、能登地域の病院等から搬送される患者の入院先を調整した。また、重度の骨折である開放骨折や、脳血管障害の患者を中心に附属病院での受入れを行った。

石川県や石川県JRAT等の要請に基づく職員の派遣　1/1(月)～

【輪島市】
市立輪島病院

【珠洲市】
・正院小学校（避難所）
・飯田小学校（避難所）
・飯田高校（避難所）
・珠洲市総合病院

【能登町】
公立宇出津総合病院

【七尾市】
公立能登総合病院

【金沢市】
・石川県庁災害対策本部
・石川県保健医療福祉調整本部
・石川県薬剤師会本部
・いしかわ総合スポーツセンター （1.5次避難所）※
・額谷ふれあい体育館 （被災者受け入れ場所）

職員の派遣

- 医師
- 看護師
- 薬剤師
- 管理栄養士
- 臨床検査技師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 救急救命士
- 医事事務職員 等

※特に、いしかわ総合スポーツセンターで避難者の体調管理に対し、臨床系の教員はもちろんのこと、基礎系の教員も参加して、万全の対策・対応に協力している。

被災中学生・高校生への「学びの支援」

白山ろく少年自然の家
白山市瀬戸
〔白嶺中学校・鳥越中学校〕

白山青年の家
白山市八幡町

医王山ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ
金沢市田島町

金沢彩の庭ﾎﾃﾙ・個人避難
金沢市内及び近郊各所

中学校１～３年次

高校１・２年次

金沢大学　被災中学生・高校生への「学びの支援」計画　概要

学　習　支　援

SA：Student Assistant

〈Ⅰ：訪問〉避難先の宿舎や受入校へ学校教育学類等のＳＡ学生や教職員を組織的に派遣

①教育補助：ＴＡや予習・復習等を中心とする【学習の支援】実施

②課外活動：スポーツや文化活動等に参加して【共同の支援】

③ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ：課外活動の発表や展示等の披露で【慰労の支援】

→ 白山ろくの３か所へ２／14から毎日SA学生16名程度を学習の支援に派遣，並行して県教委へ本学公認課外活動団体リストを提供し派遣体制を調整中

〈Ⅱ：来学・来訪〉本学が学生・教職員や施設・設備等を確保して被災生徒や学校を支援

①勉学等の質問に対面やリモートで顔を合せて【対話で支援】

②本学講義室や本学確保の学外施設等を開放し【提供で支援】実施

③情報科学や英会話等の人材や設備を活かして【指導で支援】

→ 本学が確保し昼食等も提供する石川県文教会館で，高校生の希望者約75名が２／２から学習を開始，２／７から毎日SA学生４名程度を学習の支援に派遣

メンタル支援

〈こころのケア〉

専門チーム【KEYPAT】

（保健管理センター，附属病院，人間社会研究域等）

公認心理師・臨床心理士や医師・保健師・看護師等が，養護教諭やｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等と連携し，医療的ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ等にも対応

→ 白山ろくの学習の場教員を２／５にチーム教員が訪問

KEYPAT：KANAZAWA Educational Yell Psychological Assistance Team

石川県教育委員会

金　沢　大　学

ボランティア登録学生447名のうち、206名が「学びの支援」活動を希望（2/13時点）

ボランティアさぽーとステーション(ボラさぽ)　活動記録

	1.5次避難所 （いしかわ総合スポーツセンター）	被災地	街頭募金 （金沢駅）	その他
内　容	避難所の清掃(モップ掛けや各所の消毒)、食事の提供、被災者との会話など	家財や災害ごみの搬出や分、液状化した畳の搬出など	石川県災害ボランティア協会、石川県防災士会及び県内高校と合同実施	田上公民館での炊き出し、足湯＆交流会など
ボランティア参加学生数 （延べ人数）	８４	5	9	１７
合　計	１１５			

金沢大学ボランティアさぽーとステーション（ぼらサポ）では、発災直後から打ち合わせを重ね、R6.1.12の田上公民館での炊き出し支援を端緒として、被災された方々に寄り添ったボランティア活動を展開しています。
今後は、石川県内、近郊の大学と連携し、ボランティア支援の輪をさらに広げていきます。

足湯＆交流会の様子